



白熱の小早レース

誰もが参加し、体験したくなるまつり 因島水軍まつり実行委員会

因島水軍まつりは、昭和55年(1980年)因島青年会議所の「ちびっこ水軍まつり」をきっかけに始まりました。当時、島には大きなイベントが無く、地域の子どもたちに地元のルーツを伝えるとともに、地域をまたいで、みんなが集まり楽しもうというのがスタートでした。現在では、因島を代表するイベントとなり、島まつり、海まつり、火まつりの3部構成となり、約3カ月間に渡ってそれぞれの部会が活動を行っています。

みんなで作りあげるまつり

全体的な運営をする水軍まつり実行委員会を軸に、6つの部会で構成されています。全部で約100人のメンバーがいますが、携わる人は全員ボランティア。夜、仕事が終わってから会議などに集まります。また、当日のスタッフやまつりへの協賛、レースへの参加なども含めると、地域に参加しない人がないくらいの地域一体型イベントになっています。

それぞれ違うまつりの意味

「島まつり」は、かつての城に見立てた公民館等から武者が出陣していく、先人に感謝するまつりです。地域のボランティアが朝から着付けなどを手伝い、地元の有志が甲冑に着替えて勇ましく城を出発し浜に集結します。「海まつり」は、今では希少と



火まつり武者行列

なった木造船で、村上海賊が伝令船として使用した小早船のレースが行われます。毎年、地域内外から参加の約60チームが競います。練習も2カ月間にわたり行われ、夕陽沈む布刈瀬戸に響き渡る太鼓の音と練習風景は、まさに地域におけるこの時期の風物詩になっています。「火まつり」は、松明の灯に照らされた夜の砂浜に鎧武者が再集結。夕風を背に開会宣言から約4時間、家族の帰還を喜んだ姿を基にしたという跳楽舞はねくらベコンテストや、大松明の練り回しなど、迫力ある演目が休みなく行われていきます。この大迫力のシーンを最後に、かつての先人たちに想いを馳せた住民たちによる水軍絵巻は、夏のフィナーレをむかえます。

人々を動かす原動力とは

3つのまつりの意味や目的が違うように、参加者の意味や目的も様々です。しかし、村上海賊という地域のルーツを探り、地域におけるアイデンティティを具現化することで、人々が共感し、自分事として参加したくなるまつりになっています。普段はそれぞれが生活している住民たちが、年に一度集結することで、希薄になりつつある住民を繋ぎ、大きな交流の場として活用され、地域のコミュニティを作りあげる大きなイベントになっています。

今年は豪雨災害のため島まつりは中止しましたが、海まつり、火まつりは開催します。ぜひお越しください。



因島水軍まつり
INNOSHIMA SUIGUN MATSURI

海まつり 8月26日(日) 8:30~17:00

火まつり 9月1日(土) 16:30~21:40

場 因島アムニティ公園・しまなみビーチ

問 因島水軍まつり実行委員会(因島総合支所内)
(☎0845-26-6212)

地域の特色を活かした活動をしている人や団体をご存じの方は情報をお寄せください。
問 政策企画課(☎0848-38-9435) E-mail: kikaku@city.onomichi.hiroshima.jp